

# 広島県立 叡啓大が開学

## 英語重視 社会の即戦力育成

広島県立叡啓大が1日、広島市中区で開学した。社会の課題を見つけ、解決策を考えるソーシャルシステムデザイン学部は、豊富な教養科目や英語学習を取り入れる。県をフィールドに、企業や自治体で即戦力となる人材の育成を目指す。

大学によると、1期生としてソーシャルシステムデザイン学科の約90人を迎える。出身は県内と県外がほぼ半数ずつで、留学生は国内の高校を卒業したウガンダ人たちが2人いる。秋入学では留学生を20人募る。学びでは、持続可能な開発目標（SDGs）との関連を意識する。平和論、社会起業家論、地球環境論など幅広い教養科目を必修。国内外でのインターンシップ（就業体験）や奉仕活動も卒業までの必須としている。演習や就業体験をしやすいうちに、1年を4学期に分割した。キャンパスは、元広島国

際大広島キャンパスを活用する。県と大学の運営法人が土地と築19年の建物を42億4400万円で購入し、3億9100万円かけて改修した。地上15階地下1階

建て、9〜13階は国際学生寮になるという。県高等教育担当は「多様な学生を育て、大学のブランド力を高める」としている。

（赤江裕紀）

# 実践力と国際教養を育む

## 保井学部長に聞く

大学によると、1期生としてソーシャルシステムデザイン学科の約90人を迎える。出身は県内と県外がほぼ半数ずつで、留学生は国内の高校を卒業したウガンダ人たちが2人いる。秋入学では留学生を20人募る。学びでは、持続可能な開発目標（SDGs）との関連を意識する。平和論、社会

「どんな大学ですか。仕事を つくる人」を育てる。2045年には人工知能（AI）が人間を追い越し、今の仕事の半分はなくなるとされている。生き抜くための実践力や国際教養を育むため、アクティブラーニング（能動型の学び）と英語に力を入れる。

学生には、企業や地域の人が何に悩んでいるのかを分かむため、深い対話をしようとする。三つの特徴を感じている。まず国際社会に貢献したい人。次に「広島の特産品を世界に輸出したい」というような、地域に根ざして世界で活躍したい人。そして、企業や地域の実際の課題を解決したい人だ。これまで学生は地方から東京に出て学び、企業に入り、世界へ出ていた。今は

「地域での存在感を高める必要がある。ネットワークの中心になり、知名度を上げたい。他大学と協創し、機敏さをアピールする。キャンパスでは、1階に企業や自治体とのワークショップを気軽に開ける場を用意しており、社会人も集まる拠点にしていく。別に地域住民に開放できる部屋があり、学生がサポートして開いていく。

（赤江裕紀）



「社会を前向きに変える人を育てたい」と語る保井学部長



やすい・とゆき 1962年、大阪府高槻市生まれ。東京大教養学部を卒業後、85年に大蔵省（現財務省）へ入省。地方課長などを歴任し、20年12月に金融安定監理官で退職した。経済協力開発機構（OECD）へ出向した経験があるほか、08年から慶応大大学院で教壇に立つてきた。専門は社会システムデザイン学。

（赤江裕紀）